

# 検討会の論点と 前回の意見交換について

---

平成30年12月17日  
国土交通省 国土政策局

【論点1】 経済・産業構造や、人々の暮らし、価値観等が今後大きく変わっていく中で、リニアやその他の高速交通ネットワーク(新幹線、高速道路、航空等)等の整備によって、交流・対流に要する時間の劇的な短縮が、ビジネススタイルやライフスタイルにどのような影響を及ぼす可能性があるのか。

- ①経済・産業や、人々の暮らしのスタイルや、価値観は、リニアの整備が進む中長期間に、どう変化  
する可能性があるのか。その変化において、人の移動に要する時間が短縮することの意味は何か。
- ②リニアの開業及びその他の高速交通ネットワークの整備によって、例えば、次の点にどのような  
可能性があるのか。
  - ・新たな価値創造、研究開発、生産方法、働き方、取引関係の拡大、人材の獲得や育成方法など  
にどのような変化を生じさせる可能性があるのか。
  - ・大都市部の高齢者の生きがいや、若者・中高年齢者の自己実現や観光・娯楽・癒しなどに対する  
ニーズの増大等、暮らしの質の充実や、そのための新たなビジネスなどに、どのような可能性があ  
るのか。
  - ・海外から人や投資を引きつける国際的な魅力の向上について、どのような可能性があるのか。
- ③新たな交通サービスや交通基盤、都市環境などにどのようなことが望まれるか。

※上記について、ゲストスピーカーの意見を伺う。

※尚、リニア開業の見通しは、東京-名古屋間が、2027年頃、東京-大阪間の開業が、2045年頃から  
最大8年間前倒しと想定されている。

上記に加えて、

リニアによって生じる時空間的な人口の増大や、産業の集積、知の対流の活発化等による経済効果  
について、可能な限り定量的な分析を行う。

## 検討会の論点

**【論点2】** 論点1において明らかにされるリニア等の整備効果を「引き出す」ために、各地で共通して取り組むべきことは何か。

- ①企業、大学や研究機関等の交流・対流を促進し、イノベーションの創出につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ②大都市部の高齢者の生きがいづくりなど、暮らしの質の向上に対するニーズに対応し、これを新たな価値創造やビジネスの拡大につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。（セカンドライフにおける新しい幸福を創出するにはどのようにすべきか。）
- ③地域の文化・伝統を引き出し、新たな価値創造につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ④海外の人と投資を引き付ける魅力ある地域づくりにつなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。また、海外への情報発信、ニーズの把握はどうするべきか。

**【論点3】** 論点2を踏まえ、論点1において明らかにされる効果を「引き出す」ための国土デザイン、地域デザインの基本的方向をどう設定すべきか。

- ①三大都市圏の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。
- ②中間駅を中心とする地域の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。特に、中間駅を中心とする地域のプロモーションや地域ブランディングなどを進めていくためには、どのような要素に着目すべきか。
- ③リニアの効果を全国に拡大するための方策は何か。特に、インフラの質の向上、進化の基本的方向はどうあるべきか。

## 【中津川市 青山 節児 市長、岐阜県 鈴木 修二 都市公園整備局長との意見交換】

### (1) リニア駅周辺の都市構造

- ・現在の中心市街地(JR中津川駅周辺)を「都市拠点」、リニア駅周辺を豊かな自然を実感できるコンパクトかつ交通結節点機能を重視した「広域交通拠点」とする。(中津川市)
- ・道路ネットワーク(濃飛横断自動車道、東濃東部都市間連絡道路の整備等)により、波及効果の広域化、各拠点間の交流の活性化、賑わいの創出を図るとともに、今後は2次交通の移動手段としての自動運転技術の検討も進める。(中津川市)

### (2) 「訪ねてよしのまちづくり」／観光振興に関する取組

- ・四季の変化を彩る森林や溪谷、木曾川等の豊かな自然や、地歌舞伎や中山道の宿場等の歴史文化など、地域資源を感じられる体験型観光を進めるほか、中部総合車両基地の観光拠点化を推進。(中津川市)
- ・沿線7市町とともに「東美濃歴史街道」を核とし、エリア内の周遊滞在や下呂温泉や飛騨高山等への誘導に向けた取り組みを推進。地歌舞伎による国際交流や、美濃焼のオープンファクトリー等を実施。(岐阜県)

### (3) 「住んでよしのまちづくり」／産業振興に関する取組

- ・将来の産業を支える人材の育成や、大都市からの移住・定住環境の確保に向けた取組を推進。(中津川市)
- ・高速道路沿線の「東濃クロスエリア」では企業誘致が好調を維持。将来に向けては、本社機能移転誘致を見据えており、東京一極集中の是正の観点からも、国土政策の位置づけと支援施策の後押しを期待。(岐阜県)

## 【以下、委員より】

- ・社会が大きく変化する中、地域を豊かにするためには、成長をリードする新たな産業の創出に加え、今後どのようなものに価値が見出されるか捉える必要がある。
- ・リニア開業後に時間距離が短くなる隣接駅とは、企業立地など「競合関係」の中で地域を育てる一方、広域交通や観光等、「協調関係」による棲み分けや擦り合わせも期待される。

## 【名古屋市 松雄 俊憲 総務局企画調整監、愛知県 横井 篤史 政策企画局長との意見交換】

### (1) 名古屋におけるSMRの意義

- ・名古屋駅起点の2時間交流圏人口は約6,400万人(全線開業時)と、品川・大阪起点を抜き全国最大。大阪開業までの10年間は名古屋が終点となるという認識をもち、東京・大阪に次ぐ三番手からの脱却とSMRのセンターとしての日本の成長を牽引することを目指す。(名古屋市)

### (2) 名古屋を中心とした大都市圏の役割

- ・名古屋市は「国内外の人を円滑につなぐハブ・呼び込むコア」、「ものづくり文化の中核として世界の成長を先導」、「東京圏の機能の補完、分散の受け皿」の役割を担い、名古屋大都市圏は「圏域内の多様な個性・ポテンシャルを最大限に活用し、世界における日本の相対的な立場を押し上げる」役割を担う。(名古屋市)
- ・機能強化された国際拠点空港・港湾を有し、産業の革新・創造拠点である中京大都市圏がスーパー・メガリージョンのセンターとして我が国の成長を牽引。(愛知県)

### (3) リニア時代を見据えた名古屋の将来像と主な取組

- ・国内外のヒト・モノ・カネ・情報の行き交う交流拠点都市の実現のため、「イノベーションを創出するまち」、「賑わいがあふれるまち」、「国内外の企業や人から選ばれるまち」を目指しており、中心部へのイノベーション拠点の形成や、名古屋からイノベーター1万人の輩出を目指す取組を進めている。(名古屋市)
- ・我が国の人流・物流を支える強くしなやかな都市の実現のため、「名古屋駅周辺を国際レベルのターミナルにすること」、「大規模災害時の首都機能をバックアップする機能を備えること」、「域内の回遊性や域外の拠点都市とのアクセス性の向上」、「中部国際空港、名古屋港の機能向上」に向けた取組を進める。(愛知県、名古屋市)

## 【以下、委員より】

- ・名古屋がセンターとなるためには、現在集積している資源だけでなく世界中から資源を集める必要がある。今までの産業の延長線上だけに成長があるのではなく、野心的な発想により、次に成長する技術で世界からイノベーターや資金を集められるイノベーションの核をもたなければならない。
- ・名古屋周辺の道路・鉄道ネットワークは、線上だけでなく8の字を描くハブであり、日本海と太平洋を結ぶ南北軸のハブでもある。こうしたセンター性は、物流の観点からも非常に重要。